

## 巻頭言 にかえて

山のトイレを考える会 代表 小枝正人

北海道の山を愛する山のトイレを考える会員の皆さま、この1年いかがお過ごしでしたか。令和7年度（2025年度）の「山のトイレを考える会」は、皆さまのご支援に支えられて、この1年も元気に活動をやり遂げることが出来ました。本当にありがとうございました。

例年、新しい年の3月に会員の皆さまや会員外の多くの方々も共に集まり、「山のトイレを考えるフォーラム」の開催を26回に亘り続けてきましたが、今年は諸般の事情によりフォーラムの開催は中止し、活動報告会を会員の皆さま限りで、こぢんまりと開催することになりました。フォーラム開催が無いのは少し淋しい気分ですね。

2000年6月に当会が発足して以来25年余りの来し方を振り返りますと、大雪山国立公園では、当時、3つの場所の山岳環境問題が大きな課題として懸念されていました。トムラウシ山南沼野営指定地、美瑛富士避難小屋野営指定地および旭岳・裏旭野営指定地のトイレ問題でした。それらは、改善されたでしょうか。改善に向かっている場所と、残念ながら変わらぬ問題を抱えている場所とに分かれたままです。私達の長年の活動も力不足を実感します。

トムラウシ山南沼野営指定地は、携帯トイレブースも増設され、多くの関係者の継続した活動の結果、トイレ紙・汚物は消え野営指定地周辺に出来ていたトイレ道の植生が回復してきました。美瑛富士は、美瑛町・環境省・登山者団体による官民協働活動による美瑛富士避難小屋携帯トイレブースの設置・維持・点検パトロール活動の継続で、ここもトイレ道の植生が回復する効果が上がって来ています。しかし旭岳・裏旭野営指定地は、まだ何も変わっていないのです。

直近の情報をお知らせします。2026年1月8日に旭岳・裏旭野営指定地への携帯トイレブース設置の件を議論してきた大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会は、当日の第8回目をもって検討作業部会そのものの開催を終了としました。旭岳・裏旭野営指定地の携帯トイレブースは環境省の調査報告書で設置の必要性は確認されましたが、維持管理体制の検討を(上位部会の登山道維持管理部会にて)継続して議論することになりました。真意が判りますでしょうか。

私達は、そのままに寝ているヒマは無いのでしょうか。これからの1年も目を開けて、これからも山を守る～山岳環境の改善を目指して活動していきます。皆さまからのご鞭撻を待っています。

結びはいつもの次の言葉です。

～山岳環境問題改善の活動は官民協働の仕組み構築こそが未来への道である～